

「市町村の事例紹介」

【千代田町】館林地域の防災教育

千代田町立西小学校： 学校公開に合わせた防災教育支援について

令和5年11月25日（土）、千代田町立西小学校にて、1～6年生を対象に、防災教育を行いました。当日は、学校公開日であり保護者の方にもみていただきながら、低学年、中学年、高学年ごとに内容を変え、利根川上流河川事務所、千代田町、群馬県河川課、砂防課、館林土木事務所の職員にて、講義を実施しました。

【千代田西小学校】

- ・児童の記憶に残る体験型の防災教育を実施したい
- ・保護者も一緒にこの地域の災害リスクを知ってほしい
- ・自助・共助の意識を持てるようになってほしい

支援要請

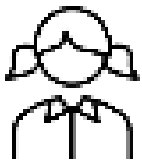
群馬県

国

支援協力

千代田町

■1-2年生：降雨体験（国交省降雨体験車を使用）



思い通りにならなかった。息ができなかった。

大雨と風が吹いたら、避難しようと思った。



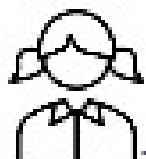
自由に動けなかった。天気予報を確認して大雨の日は外に出ない。
普段できないことができて嬉しかった。

■3-4年生：ハザードマップを用いたマイ・タイムラインの作成実習（群馬県館林土木事務所）



ハザードマップ作りで防災のことや警戒レベルを覚えられた。

千代田町にも氾濫の危険があったり、起こる可能性が高い事がよく分かった。



ハザードマップを良く確認できた。防災教育でやったことを生かして生活したい。

■5-6年生：避難所体験（千代田町）



避難所に来た皆で協力してやることの大切さが分かった。

段ボールベットは、高齢者や身体の不自由な人が使うと聞いてはっとした。



避難時はどんな行動をとって何を備えてどんな状況が予測できるのかがわかった。

「市町村の事例紹介」

【片品村】地区防災計画の作成

1. 地区防災計画策定の経緯 住民による防災計画

■住民自らが主体的に避難行動をとるために、土砂災害に関する知識、適切な警戒避難に関する平時の備えの重要性等、講習会や地区役員会で住民の意見等を確認した。



群馬県のマイ・タイムライン作成講習会（片品村役場会議室）

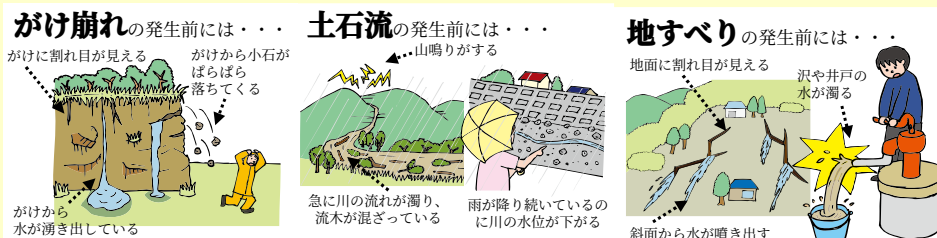


地区役員会での説明、確認（幡谷住民センター）

幡谷地区 自主避難行動

自主避難のポイント

- 土砂災害や河川の氾濫に関する危険情報（1ページ）を確認しましょう。
- 自宅で雨量を計測する習慣をつけましょう。**1時間に20mm、連続雨量で100mm**の雨で土砂災害が起こりやすいと言われています。
(寸胴形の容器等を利用することで雨量の目安が把握できます)
- 土砂災害の前ぶれには一例として下記の現象があります。



- この様な現象を見に行くことは危険です。**絶対にやめましょう**
- いつもと違う状況を確認したら、**すぐに避難しましょう**
- 水害・土砂災害につながると思われる状況を確認したら**すぐに避難しましょう**

自主避難への警戒

災害時緊急避難地図を参照

- 1：地域内のがけや沢で土砂災害の前ぶれが確認された場合
 - 2：土砂災害警戒区域に近い住宅は大雨時早めに避難する
 - 3：河川に近い住宅は大雨時など早めに避難する
- 釜掛け沢下流・十二沢下流の住宅は土砂災害に警戒し早めの避難行動**
塗川周辺の住宅は河川氾濫に警戒する
過去に集落全体が風害により被害が発生しているため注意

いざというときの避難対応

周辺の様子に注意して、身の安全を第一に考えた対応をとってください。

■地域内外にかかわらず、より安全と思われる場所への避難が可能なとき

➡ **村の指定避難所（旧武尊根小学校体育館）** へ避難

■遠くまで避難するのが危険な状況のとき

➡ **比較的安全と思われる場所や建物** へ避難

■すぐにでも身の安全を確保する必要があるとき

➡ **自宅を含めて、がけや沢から少しでも離れた最寄の建物の2階以上** へ避難

片品村 幡谷地区防災計画

1. 基本方針

尾瀬かたしなエリアゼロカーボンパーク登録を機に宣言された「片品村5つのゼロ宣言2050」の柱である自然災害による死者ゼロを目指し、幡谷地区住民の防災意識をより高め、ハザードマップ等を主体的に活用し、住民自ら防災情報の取得を行うことにより死者ゼロを達成する。

2. 災害特性

土砂災害警戒区域および洪水浸水想定区域に隣接した場所に、多くの住宅が立地されている。

3. 平時の活動

平時から危険箇所や避難場所などの確認を行い、事前避難の必要性を認識する。なお、要配慮者の支援については福祉関係者会議で確認したとおり実施する。

4. 災害時の活動

組長を中心に消防団（救助、消火）班長（連絡、搜索）など公的支援が得られるまでの期間、協力して命を守る行動をとる。また、炊き出し、支援物資の仕分けなど状況に応じて協力して対応する。

5. 避難訓練

梅雨の時期になる前に、平時の活動を再確認し、「わたしの避難行動」による避難行動を訓練しておく。

6. 計画の構成

この計画の構成は以下の通りである。

- ・平時の活動として日ごろから気を付けておくこと（1ページ）
- ・災害時緊急避難地図（2、3ページ）
- ・わたしの避難行動（4ページ）**☞平時にチェック、入力する**
- ・自主避難行動（5ページ）
※必要に応じて修正を行う。

❗ 土砂災害の危険性 ~ 発生すれば逃げる間もなく家ごと破壊 ~



下仁田町中小坂（がけ崩れ）

がけ崩れは、逃げる暇がない速いスピードと、強い破壊力で、人命を奪います。

出典：群馬県



藤岡市上日野（土石流災害）

土石流は、速いスピードと強い力で、広域の人の命や家などの財産を奪います。

出典：群馬県

❗ 土砂災害や河川の氾濫に関する情報

群馬県土砂災害警戒情報



インターネット上で、自宅付近の土砂災害の危険度を見ることが出来ます。

<https://www.dosya-gunma.jp/sp/>



河川水位・雨量情報（かわみるぐんま）

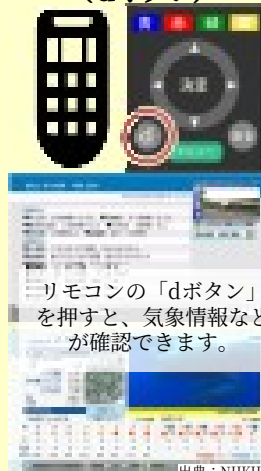


インターネット上で、自宅付近の雨量や河川の水位情報を見ることが出来ます。

<https://mobile.suibou-gunma.jp/>



テレビデータ放送（dボタン）



リモコンの「dボタン」を押すと、気象情報などが確認できます。

出典：NHKH

❗ 片品村からの情報に注意

土砂災害や洪水が発生する可能性が高くなると、次のような情報が発表されます。

緊急安全確保（警戒レベル5）

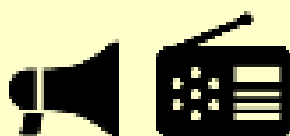
：命を守る行動をとる。

避難指示（警戒レベル4）

・危険な場所から全員が避難をする。

高齢者等避難（警戒レベル3）

・高齢者や障がいのある人は避難をする。



防災無線、個別受信機の情報に注意しましょう。

自宅は危険な区域に入っていますか▶「災害時緊急避難地図」を確認しましょう

私の家は ☐ 区域内（☐ 土砂災害警戒区域・☐ 洪水浸水想定区域） ☐ 区域外です。

▶区域内にチェックを入れた方は、以下のフローに従って避難してください。

▶区域外にチェックを入れた方は、③の行動を取ってください。

①雨が降り始めたら、雨や川の状況に注意を払う

土砂災害や河川の氾濫が起こる情報を確認できるようにしてください。（インターネットで雨や川の状況を見る。テレビのデータ放送をつける。）



②避難が必要な状態になったら避難する

私は ☐ テレビ ☐ インターネット ☐ その他 の情報をもとに

いつ ☐ 高齢者等避難・レベル3 ☐ 避難指示・レベル4

誰と ☐ 一人で ☐ 家族と ☐ 地域の人と ☐ その他

※避難の呼びかけを近所の方に行いましょう

何で ☐ 徒歩で ☐ 車で ☐ その他

緊急避難：移動に危険を伴う場合は、自宅を含めてがけや沢から

少しでも離れた頑丈な建物の2階以上へ避難

事前避難：安全に避難できる場合は、少し遠くてもより安全な場所へ避難をします

緊急避難（屋内退避・安全確保）

☐ 家の近くのコンクリート構造の建物

☐ 家の近くの2階以上の建物

☐ 家の中のがけや沢から少しでも離れた部屋

避難場所：

※避難中の被災を避けるための行動であり、建物ごと被災する可能性があります。事前避難を心がけましょう。

事前避難（立ち退き）

☐ 片品村が指定した避難場所へ避難

避難場所：

☐ 安全な親戚・知人宅へ避難

避難場所：

☐ 安全なホテル・旅館へ避難

避難場所：

☐ 車で安全な場所まで避難・その他

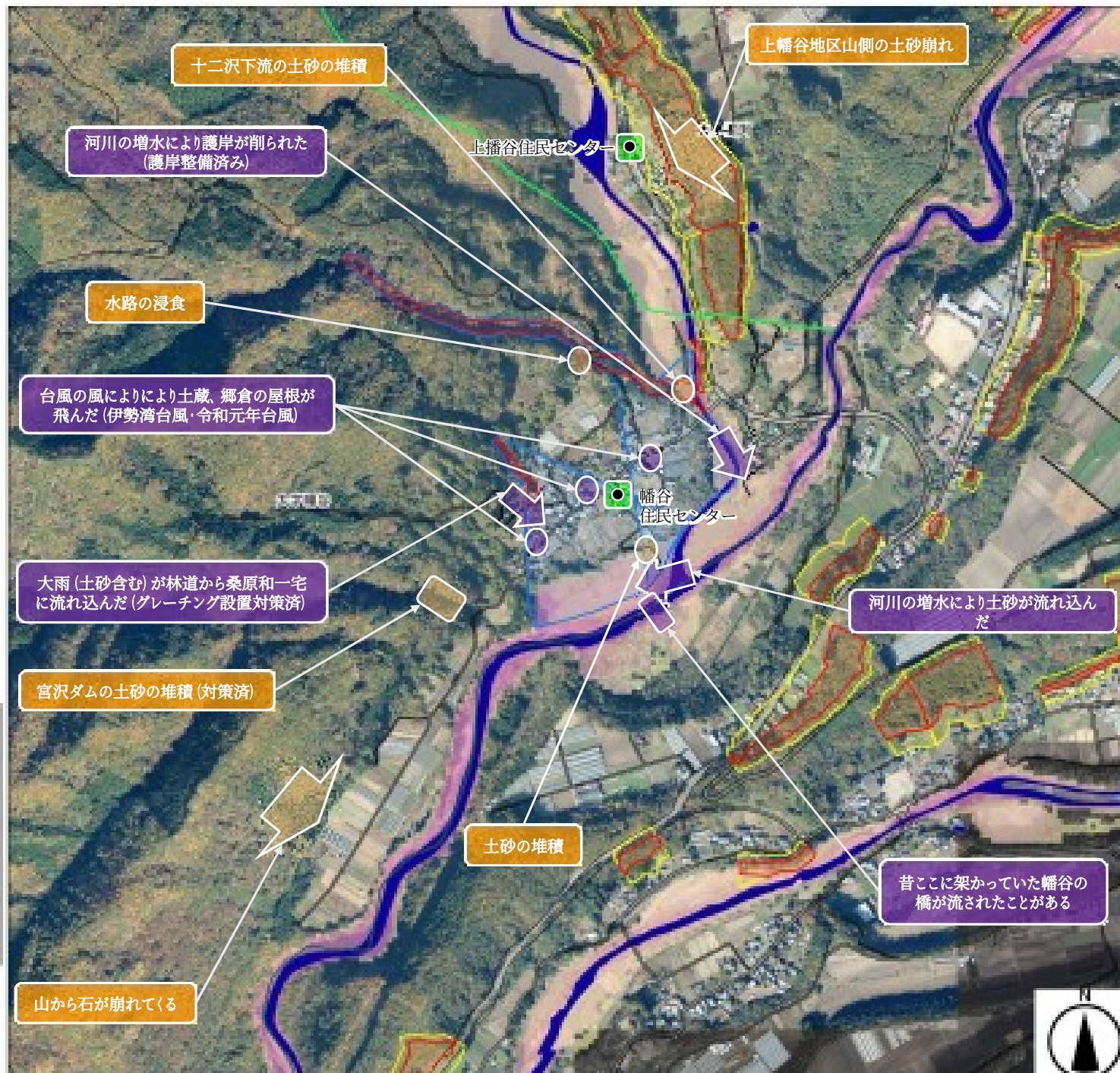
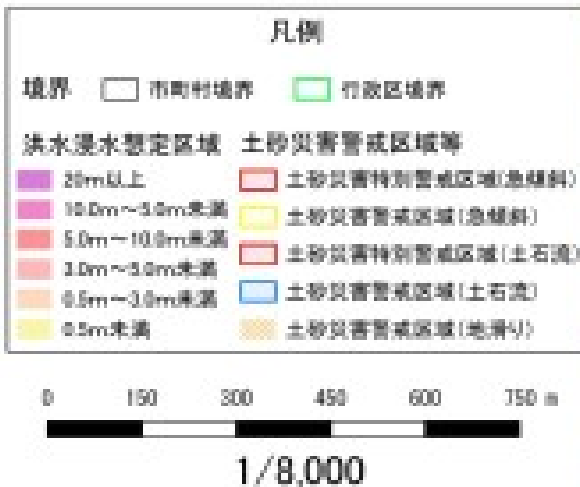
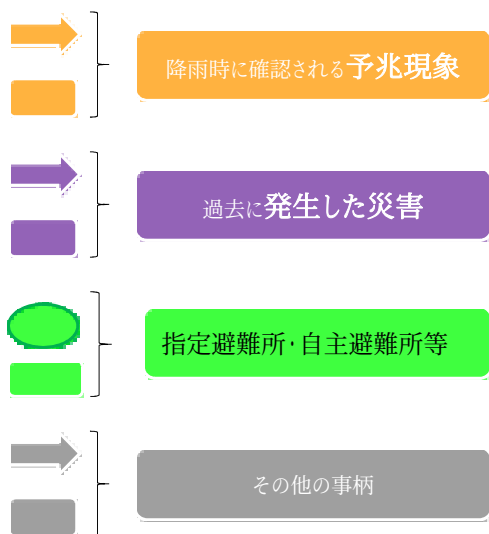
避難場所：

③安全が確保されたら報告体制に従い報告する。



片品村幡谷地区 災害時緊急避難地図

情報集約で把握した地域内の
土砂災害危険箇所
(令和4年5月時点)



出典：洪水浸水想定区域
(群馬県土整備部河川課)

出典：政府統計の総合窓口 (e-Stat)
(<https://www.e-stat.go.jp/>)

出典：国土交通省国土数値情報ダウンロードサイト
(https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-A33-v1_4.html)

「測量法に基づく国土地理院長承認 (使用) R 4JHs 493」

2. 策定後の取組み



群馬大学金井教授 片品村梅澤村長 利根川水系砂防事務所
大阪所長

上毛新聞に掲載

令和5年4月6日 上毛新聞より



2. 策定後の取組み 上毛新聞に掲載

住民主体で防災計画

地域の実情を反映

片品 全32地区策定 明和 新冊子を作成

多発する集中豪雨や台風による洪水、土砂崩れなどに備え、県内で住民主体の地区防災計画を策定する動きが広がっている。住民が地域の災害リスクを理解し、行政だけに頼らずに自ら緊急時の避難場所や行動について考え、地域の防災活動の強化につなげる活動。片品町は昨年度、全国に先駆けて村内の地区防災計画を策定したほか、明和町でも有志を中心に、新たな防災リーフレットが完成した。

片品町は昨年度、全地区で住民主体の地区防災計画を策定した。村総務課によると、全村での計画作成は県内初で、全国的にも例がないという。

きっかけは、県が2004～15年度、群馬大と協働して県内の自治体で取り組んだ、住民主体の自主避難ルール作りだった。同村では管治地区で行われ、それを基に各地区の住民が議論した。

水路の増水や沢の泥水といった災害の多発現象、過去の土砂災害の発生地などを書き込み、比較的安全な場所や建物を示して計画をまとめた。

民の防災意識が高まったことと、同課は「それぞれの事情を踏まえた『各家庭』とこの避難行動が期待できる」としている。

同様の取り組みを進めていた明和町新里区（島田弘士区長）でも今年4月、利根川の氾濫などによる大規模な水害の発生を想定した防災リーフレットが完成した。

町内では2019年の台風19号を踏まえ、積極的に防災活動に取り組もうという機運が高まった。昨年5月、区長の島田さんや防災士の資格を持つ副区長の江家利幸さんら6人が新里防災委員会を設立。群馬大大学院理工学部の金井昌徳教授の協力を受けながら、月1回程度の会合を開き、リーフレットをまとめた。

リーフレットは利根川が氾濫した場合、町の大部分が3～5日浸水するとし、自宅の2階では水害をやり過ごせない可能性を指摘する。「水害時の避難の考え方」と「要支援者の避難」の二つに大別して記述。緊急時の避難方法を具体的に複数考えておくことの重要性や、要支援者と支援する側を明確化し、支援内容と注意事項を明示している。

同地区の防災計画の中学校となるリーフレットについて、江家副区長は「これからも地区に何が必要か検討と行動を繰り返して災害に備えたい」と話している。

島田さんは同じ時期に新里区自主防災会も立ち上げ、研習会を開催。メンバー25人が地域の災害リスクや緊急避難について検討し、6月には住民向けの研修会を初めて開いた。

金井教授は地区防災計画について「最も重要なことは、住民主体で自分たちが必要なものと考え、災害に備えることだ」と、住民の主体的な行動の重要性を強調している。

（要旨編集）

令和5年8月19日 上毛新聞より

3. 策定後の取組み

①地区防災計画を活用した避難訓練（幡谷地区）

日時：令和5年8月19日(土)7:00～8:00

場所：片品村幡谷住民センター

参加者：住民27名、村長他7名

内容：(1)地震発生による住民避難訓練
(2)地区防災計画（わたしの避難行動）確認

わたしの避難行動の記入状況



幡谷住民センター（住民の避難状況1）



幡谷住民センター（住民の避難状況2）



3. 策定後の取組み

②地区防災計画を活用した避難訓練（越本地区）

日時：令和5年10月29日(日)7:00～8:00

場所：片品村越本グラウンド

参加者：住民90名、村長他7名

内容：(1)地震発生による住民避難訓練
(2)地区防災計画（わたしの避難行動）確認

避難・安否確認放送



わたしたちの避難行動記入状況



避難訓練状況

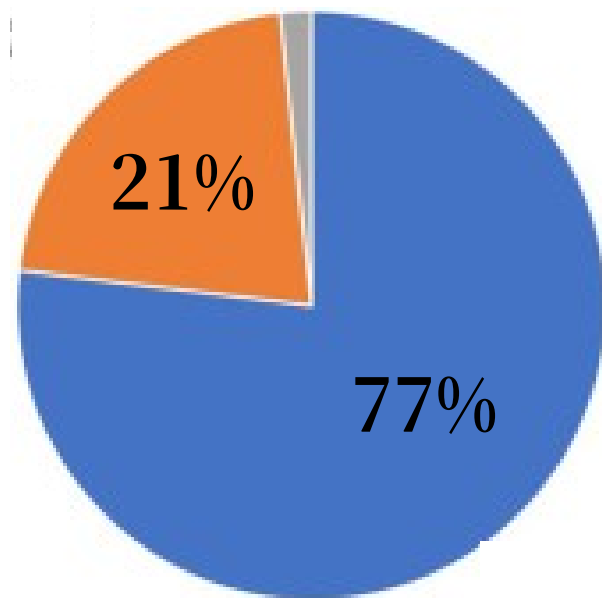


3. 策定後の取組み

片品村避難訓練に合わせたフォローアップ

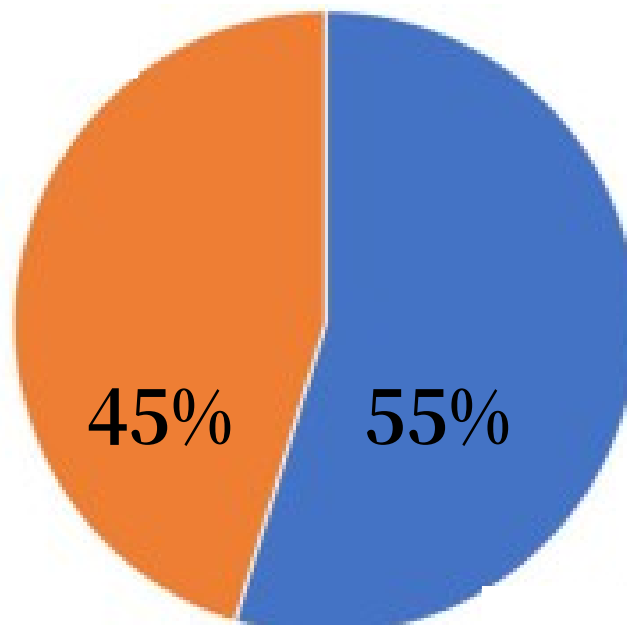
地区防災計画に関するアンケート結果

地区防災計画が作成されていることを知っていましたか？



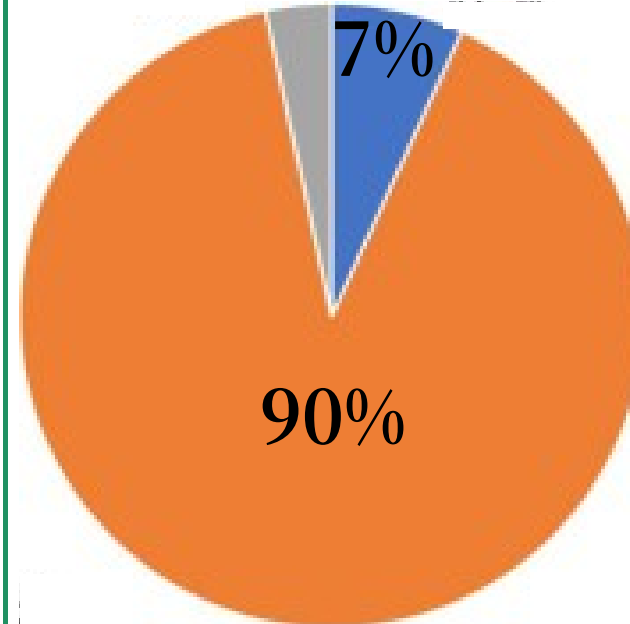
地区防災計画は**約8割の住民**が取り組みを知っていることから**認識度は非常に高い**。

地区防災計画の記載内容が分からなかったものにチェックを入れてください。



地区防災計画の記載内容の**理解度が低い住民が約4割程度**いることから、説明会、勉強会等の支援が必要である。

いざという時に「わたしの避難行動」を活用できるようになるには訓練が必要だと思います



約9割の住民が「わたしの避難行動」を活用するために訓練が必要だと考えていることから**避難訓練を継続的に実施**する必要がある。

4. 策定後の取組み 小学校での防災教育



5. 策定後の取り組み

片品村防災講習会

(一社) 全国治水砂防協会副会長 岡本正男 様

群馬大学災害社会工学研究室 教授 金井昌信 様



片品村消防団秋季点検 ちびっこ消防団

① ラッパ吹奏による入場



② 水消火器による訓練



③ 消防車との記念撮影



④ 部隊訓練の参加

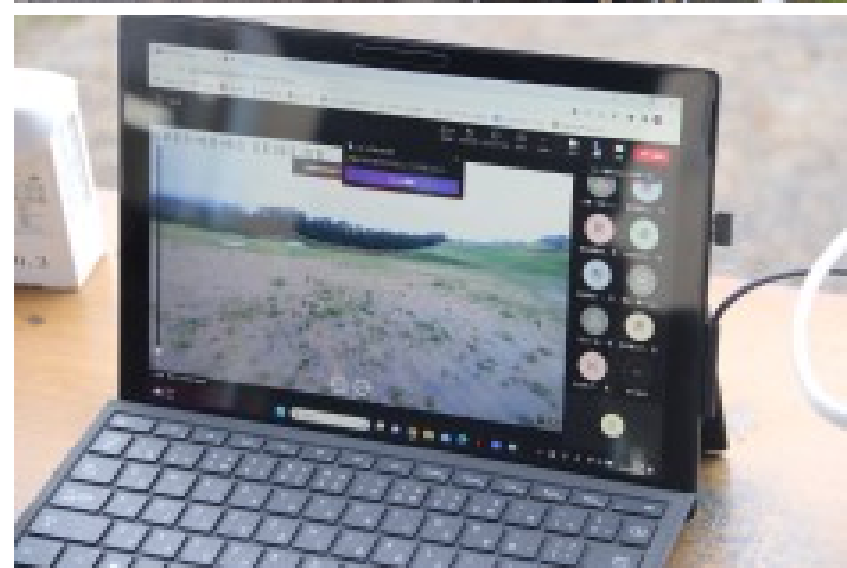


ドローンを活用した映像共有訓練

令和5年9月8日実施

○訓練参加団体

片品村・片品村消防団・群馬県（危機管理課、土木事務所）広域消防本部
国交省（利根川水系砂防事務所）・NTT東日本群馬支社・東京電力渋川支社



ドローンを活用した映像共有訓練

令和4年9月2日 上毛新聞より



ドローン使い映像共有

片品 9/2 上

「防災の日」の1日に合わせ、片品村と村消防団、NTT東日本群馬支店、利根沼田広域消防本部は、同村花咲のほたか牧場キャンプ場で、ドローン映像をオンラインで共有する合同災害訓練を行った。写真。

片品地域で100㍉超の大雨と風速40㍎の強風が観測され、複数の場所で土砂崩れが起きたとの想定で実施。同社の通信設備も被災したとして、社員のパローン隊を出動させ、現場の映像を村災害対策本部や消防本部

（沼田市）へライブ配信した。

キャンプ場で人が巻き込まれたとの情報を受け、消防団もドローン隊を出動。捜索映像を共有して、二次災害を起こさない復旧、救助方法を検討した。遠隔地も含め約30人が本番ながらに連絡を取り合い、被災した通信設備や取り残された人の映像を確認した。

村は昨年1月に同支店と災害時の相互協力協定を締結。消防本部とは災害救助用ドローンの運用協定を結ぶ。

（紋谷貴史）

ドローンを活用した映像共有訓練



大規模災害に備え、ドローンの映像共有を訓練する参加者＝8日、片品村花咲

災害時、ドローン活用を

片品村と消防団など 映像共有する合同訓練

大規模な土砂災害に備え、片品村と消防団は8日、同村花咲の武尊牧場で、NTT東日本群馬支店や東京電力パワーグリッド法川支社、国交省河川水系砂防事務所などと連携して、ドローン映像を共有する合同訓練に取り組んだ。リモートで参加した県危機管理

課や県田土土木事務所、利根川広域消防本部の職員も参加。約40人が、情報共有の流れを確認した。

村と各団体は協定を結び、いずれもドローンを所有する。個々に被災地の確認や復旧に当たるより、オンラインで映像を共有すること、より迅速な人命救

助や危険地域の把握、電力復旧につなげようと訓練した。県と国交省、東京電力は今年から参加した。

村内で大雨による土砂崩れで孤立集落が発生し、電話もつながらないとの想定で訓練を開始。ドローンで住民に孤立したマネキンを探検し、救助する過程を確認した。流水でせき止められ土砂流出の危険性がある沢や、倒木や電線が切断された現場周辺の映像もモニターに映した。土砂崩れの危険性がある場所には定点カメラを設置し、監視した。

機器の操作に不慣れで映

像の共有に時間がかかる場面もあった。村務課の担当者は「操作をしっかりとるようには、関係機関と情報共有して迅速な災害対応ができるようにしていく」と意気込みを語った。

(坂谷貴史)

令和5年9月9日 上毛新聞より

防災まちづくり大賞 上毛新聞掲載



2024年（令和6年）2月28日（木曜日）

第11版（22）

防災まちづくり大賞

片品村と自主防災会 受賞

県内初 全集落で避難計画を策定

避難計画の策定は、防災の第一歩。片品村と自主防災会が、全集落で避難計画を策定し、防災まちづくり大賞を受賞した。

片品村と自主防災会が、全集落で避難計画を策定し、防災まちづくり大賞を受賞した。

片品村と自主防災会が、全集落で避難計画を策定し、防災まちづくり大賞を受賞した。

表彰状と盾を受け取る梅沢村長

片品村と自主防災会が、全集落で避難計画を策定し、防災まちづくり大賞を受賞した。

片品村と自主防災会が、全集落で避難計画を策定し、防災まちづくり大賞を受賞した。

片品村と自主防災会が、全集落で避難計画を策定し、防災まちづくり大賞を受賞した。

防災まちづくり大賞受賞



群馬県知事表彰受賞 片品村自主防災会

(令和6年3月)



消防団等地域活動表彰受賞

